

科目名	公民Ⅱ CivicsⅡ			担当教員	山岡健次郎		
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	13220029	単位区別	履修
学習目標	政治経済に関する固定的な知識を学ぶのではなく、揺れ動く状況を読み解く眼を養っていく。 とりわけグローバル化の進行する現代社会にあつては、既存の認識枠組みはもはや有効性を失いつつある。 国家単位の発想をいかに乗り越えるのか、という視点が問題の核をなす。						
進め方	前期は政治に関する認識を深めていき、後期は経済事象を理解する力を養っていく。 授業は、配布されるプリントを中心に進めていく。 さらに、できるだけ時事的な事象を取り上げ、メディアの読み解き方を紹介していく。						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. 授業の目的（1） 2. 政治とは何か（3） 3. 政治的思考の特質（2） 4. 政治的リアリズム（2） 5. 憲法とは何か（2） 6. 基本的人権（2） 7. 統治機構（2）			政治という人間活動の特徴を原理的に理解する。 A2:1 政治的判断の特色と困難について学ぶ。 A1:3 日本国憲法における基本的人権と公共の福祉との関係性について考察する。 A3:3			
	[前期中間試験]（2）						
	8. 試験問題の解答（1） 9. 平和主義（2） 10. 現代型政治的無関心（2） 11. 政党とはなにか（2） 12. ナショナリズムについて（2） 13. 日本のナショナリズム（2） 14. メディアと政治（2） 15. 戦争と平和（2）			民主主義における政党の役割について再考する。 ナショナリズムの両義性を理解する。 A1:3 メディア・リテラシーを養う。 A2:2, A3:2			
	前期末試験						
	16. 試験問題の解答（1） 17. グローバリゼーションという視座（2） 18. 多国籍企業という戦略（2） 19. 資本主義経済システム（2） 20. 労働力の商品化（3） 21. 労働者と近代家族（1） 22. 資本主義のあらたな「外部」（2） 23. 越境する人々（2）			グローバル化する経済の動きを考察する。 企業の多国籍化という現象を理解する。 A1:2 資本の蓄積過程を把握し、労働力商品化のプロセスを論理的に説明できる。 A3:1 資本がグローバル化する過程を動的に捉える。 A3:1			
	[後期中間試験]（2）						
	24. 試験問題の解答（1） 25. グローバルな労働力市場の成立（3） 26. 政治と経済の相克（2） 27. 会社とはなにか（3） 28. 日本型会社経営と日本のサラリーマン（3） 29. まとめ（2）			労働力の越境化という現象を理解する。 A1:3 株式会社の仕組みを知る。 会社のかたちと労働のかたちの関連性について学ぶ。 A1:1			
	後期末試験						
	試験問題の解答（1）						
評価方法	4回の定期試験の平均点で評価						
履修要件	特になし						
関連科目	地理（1年）→歴史（2年）、公民Ⅰ（2年）→社会特論（5年）						
教材	教科書：「高等学校 改訂版 新政治・経済」（第一学習社）						
備考	特になし						